

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は昨年、創立 90 周年を迎え、長い歴史において「文武両道」の良き伝統を貫き、社会に有為な人材を数多く輩出してきた。平成 22 年度は文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けることができました。そして、平成 23 年度は大阪府から「進学指導特色校（グローバルリーダーズハイスクール）」の指定を受けることができました。いずれも、「高い志」と夢をもち、科学技術の分野など様々な分野で国際社会において活躍する人材の育成をめざしています。そのために必要な力として、「高い学力と探究心の育成」「チャレンジ精神の涵養」「人権感覚・国際感覚の育成」「英語力」「リーダーとしての資質」等が挙げられる。

本校では、「ハイレベルかつ興味関心を引き出す授業と課題研究等の探究的学習」「生徒の進路第一希望を実現するためのカリキュラムと学習・進路指導」「生徒の自主的かつ協同的活動を促す行事・部活動」等を通し、知・徳・体のバランスの取れた全人教育をめざす。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く学力の育成

(1) 真の文武両道をめざし、自学自習を促進し、家庭での学習習慣を確立させるために 3 年間を通した豊高学習プログラムを企画立案する。

ア 1 年生は入学式を 4 月 2 日 or 3 日に、8 日までに全員対象の学習サポートプログラムを行い、高校での学習及び自学自習を指導する。

イ 1、2 年生は自学自習習慣を身につけるために、年間 2 回は自学自習日を設ける。

ウ 文理学科全員に課している課題研究基礎（1 年）、課題研究（2 年）において積極性・忍耐力・協調性を測る「心のループリック評価」を行い、課題研究の質の向上及び進路を切り拓いていく力を養う。

※「心のループリック評価」として平成 27 年度の平均は 3.0 以上、28 年度は 3.2 以上、29 年度は 3.4 以上をめざす。

(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現

ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートしていく。

イ 生徒の正しい職業観育成のために、職業別進路講演会をはじめ、職場訪問・体験等を実施する。

ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学紹介の冊子を作成する。(100%参加目標)

エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。

オ 校内実力や外部模試等のデータの一つにまとめ、新たに進路資料システムを作成して学習指導・進路指導に活用する。

(平成 27 年度より 3 年間分の生徒のポートフォリオを作成する。)

※平成 27 年度は生徒の 3 年次の進路第一希望を 55%以上（毎年 5%上げる）、京都・大阪・神戸大学等の難関大学 65 名以上（毎年 5 名上げる）にする。

2 国際舞台で活躍する人材育成

(1) 「志」の育成

ア 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、「志」学を実施する。

「志」学では、社会貢献の意識を醸成し、リーダーとしての資質を育成することを目標にして、課題研究活動とボランティア活動等の体験的活動を行う。

イ 生徒自治会を中心に、生徒のリーダーを組織し、育成する。リーダー講習会、メンタルトレーニングなどの能力開発を実施する。

※「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象 2 年生）100%実施を維持していく。

(2) 骨太の英語力養成事業の推進

ア 英語によるコミュニケーション力の育成（リスニング・プレゼンテーション講習）

イ TOEFL コース生として高度な 4 技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、TOEFLiBT 仕様の授業を SET（スーパーイングリッシュティーチャー）中心に文理学科 80 名に対して行う。

ウ 大阪大学・関西学院大学・豊中地域在住の留学生等との交流を行う。（年間 3 回）

エ 英国語学研修（参加者 30 名以上）、フィリピン語学研修（参加者 10 名以上）を継続実施する。

※TOEFLiBT において平成 27 年度第 1 学年で 4 人以上が 60 点以上、平成 28 年度第 2 学年で 4 人以上が 80 点以上、16 人以上が 60～79 点、平成 29 年度第 3 学年で 16 人以上が 80 点以上、32 人以上が 60～79 点をめざす。なお、TOEFL コース生以外の生徒については実践的英語力の伸びを測定するのに英語学力調査を用いる。

(3) SSH事業の推進

ア 第 2 期の SSH事業の継続を元に作成したプログラムを実施していく。中でも、課題研究の質の向上及びチームでの到達度を高めていく「心のループリック評価」を開発し、その評価法を実践していく。

イ 科学コンクール・科学オリンピックで入賞者を出すために、各種科学コンテスト等に参加し、高い志を持たせる。

ウ 文系・理系に限らず、生徒全員が科学に関心を持ち、科学リテラシーをもつために、生徒自身の研究発表会や講師による土曜セミナー等を開催する。

エ 科学（物理、化学、生物、地学）研修を継続実施する。

※SSH事業で毎年評価が求められる

(4) SGH事業の推進

ア SGHアソシエイトから SGHに向けて、教育の国際化を視野して真の GLHS 校として学校全体で取り組む組織を確立する。

イ 現在グローバル化をめぐる中心的な問題が先鋭なかたちで現れているイスラーム世界（言葉や文化の壁が最も大きくて理解しがたい）の多様性の理解の深化を通して、日本文化とのつながりから新たなグローバルスタンダードを創造するプログラムを研究開発する。

※SGH事業で毎年評価が求められる

(5) GLHS事業の推進

ア GLHS 事業計画にもとづき、学校全体で取り組む組織を確立する。

イ 文理学科としての理系及び文系の課題研究の質を高めるために 3 年生が 1、2 年生を指導する課題プログラムの開発や大学生・大学院生の TA（ティーチングアシスタント）も活用していく。

ウ 1 年間の授業成果及発表（豊高プレゼン）を行い、豊高の GLHS 校としての取組みを、広く生徒、保護者、教員等に知らせる。

※普通科においても、課題研究を全員の生徒を対象に行えるようなプログラム開発を順次行っていき、平成 29 年度には完全実施をめざす。

3 教員の授業力等の資質向上に向けた取組み

(1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年 2 回組織的に実施する。

(2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。（年間 2 回）

(3) ICT 活用として、教職員間で教材の共有を図ることで、授業の普及に努める。

(4) 初任者や経験年数の少ない教員とミドルリーダーのコラボによる教員の研修を組織的に行い、学校をより活性化させる。

(5) 年度の必要性に応じて、教員研修として、年 1 回以上は人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。

※授業アンケートにおける総合平均は継続して 3.2 以上をめざす。

※学校教育自己診断及び授業アンケート結果による教員研修を必ず 1 回以上は実施する。

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○3年間を通して勉学と部活動の両立を心がけ、授業を大切にすることが進路実現への最も近道であることを踏まえ、自学自習の態度を育成し、自宅での学習時間を有効に活用することが最重要課題と考えている。学校では、学習意欲の向上をめざして、GLHS校としての多様な企画やSSH・SGH事業をはじめとした課題研究、TOEFL仕様の授業、土曜日午前の講習、土曜セミナー、自習室開放等を行っている。本校が取り組んできたこれらのことについては、90%以上の生徒や保護者が肯定的にとらえていることがアンケートから読み取れる。</p> <p>○昨年度より良くなっている主な項目として「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」(85%から88%)、「わからない所を質問に行ったら、ていねいに教えてもらえる」(87%から94%)、「教材や指導内容に工夫が感じられる授業がある」(80%から84%)、「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」(85%から89%)と、授業評価とそれに伴う地道な授業の工夫、改善によるものと思われる。ただ、今年度新たに項目に加えた「授業の予習は、平均すると1日どれくらいしていますか」及び「授業の復習は、平均すると1日どれくらいしていますか」はいずれも2時間以上が13%台でした。学習の根幹である自ら学習するという習慣がまだまだ身につけていない生徒も多くいるのが実態。更なる学習時間の確保や自宅学習の充実を促していく必要がある。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○学校行事やHR活動への満足度は高く、部活動の参加率の高さとあわせて充実した学校生活を送っていると考えられる。「学習と部活動の両立」についても昨年度より14%(52%から66%)増加した。それが自学自習の時間の充実と部活動の活性化につながっているかは今後調査していく必要がある。</p> <p>○「先生は学校生活の悩みや相談に親身になって応じてくれる」(80%から82%)、「秘密を守ってくれる」(80%から85%)などは昨年度より肯定的な回答が増加し、生徒と教員の信頼関係は良好に構築されていると考えている。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>○保護者によるアンケートでは、生徒指導面では、「生徒指導の方針に共感できる」について85%の肯定的な回答がありましたが、「生徒指導面での家庭への連絡をきめ細かく行なっている」については肯定的な回答が55%となっており、より家庭との連携を密に行なっていく必要がある。</p> <p>○「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「子どもは充実した学校生活を送っている」等の肯定的な回答が9割以上あり、学校の教育活動全般をある程度評価されていると言えます。しかし、「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」(87%から84%)、「PTA活動は参加しやすい」(59%から58%)とほぼ横ばい。また、今年度新たに項目に加えた「学校のホームページを見ている」では、わずか32%ほどしか見ていないということもわかりました。保護者の学校に対する関心は年々高まっている中、学校での活動に理解と協力を求めるためにも、より一層連絡等を密にする手段や方法等模索していく必要がある。</p>	<p>第1回(5/8)</p> <p>○今年度の本校の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27学校経営計画・TOEFL仕様の授業・SSH事業・SGH事業等の説明。中でも、今年度より本格実施になるTOEFL仕様の授業やSGH事業について各担当から説明した。委員からは是非ともこのような取組みの発信をより推し進めてほしいという意見があった。 <p>第2回(7/16)</p> <p>○教科書採択について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員の先生方には次年度本校で使用する予定の教科書にすべて目を通していただき。その結果、本校の教員が教科の経験や判断を基に適切な教科書を選定しているので、特に問題もなくこれで進めていただきたい。というコメントもいただいた。 <p>第3回(12/21)</p> <p>全体として豊中高校は、GLHS事業、SSH事業をはじめSGH事業やTOEFLコースにおける英語活用能力の向上など、グローバル人材育成をめざす多種多様な取組みを行っていることを高く評価している。という意見をもらった。そんな中で、下記のような意見もあった。</p> <p>○授業アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果については、昨年度と比較して大きな変化はなかった。ICT機器を活用した授業が実施されるなど、学習環境を取り巻く状況は変化してきている。双方向型の授業を行うために、アクティブラーニング等も活用した授業も心がけてほしい。 ・学習指導要領が変更されることに伴い、生徒の意欲、判断、表現の重点を置くルーブリック評価に着眼しているのはよいことで、是非進めてほしい。ただ、ルーブリック評価は、どの観点でどう評価するかが重要となる。 <p>○学校教育自己診断より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生において、「授業についていけている」「質問にていねいに答えてくれる」の項目が昨年度から数値が上がっている。3年生になって本気で勉強を取り組みはじめ、質問にも来るようになったということはいいことだと思う。 ・「文化祭・体育祭など学校行事は楽しく工夫されている」の項目は、昨年の3年生と比較しても数値が下がっている。アンケートに「もっとまかせてほしかった。」との記述もあり、自分たちの思う通りにできなかったのかもしれない。この点、来年の学年には活かしてほしい。 <p>☆1年間のまとめ、提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSHやSGH事業に取り組むなどいろんなことにチャレンジしていただいている。授業の内容も充実している。その中で、学力もしっかり身につけていただきたいというのが願い。しかし、学力が優秀であってもモラルが低いのでは豊高の名折れになるので、モラルも高い生徒を育ててほしい。 ・これまで様々な取組みについては継続して行っていただきたい。この間の先生方の取組みについて心強く思っている。

中期的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-----	----------	-------------	------	------

目標				
1 進路を切り拓く学力の育成	<p>(1) 真の文武両道をめざし、自学自習を促進し、家庭での学習習慣を確立させるために3年間を通じた豊高学習プログラムを企画立案する。</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年生は入学式を4月2日 or 3日に、8日までに全員対象の学習サポートプログラムを行い、高校での学習及び自学自習を指導する。</p> <p>イ 1、2年生は自学自習習慣を身につけるために、年間2回は自学自習日を設ける。</p> <p>ウ 自習室を放課後午後6時30分までは毎日開放し、週2回は午後7時30分まで開放して生徒の自学自習力を高める。</p> <p>エ 文理学科の生徒の課題研究を行う上で、京都大学・大阪大学等の学生や院生をTA(ティーチングアシスタント)として活用することで、内容の充実を図る。その測定法として、積極性・忍耐力・協調性を測る*「心のルーブリック評価」を行い、課題研究の質の向上及び進路を切り拓いていく力を養う。</p> <p>*「心のルーブリック評価」・・・別紙参照</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートしていく。</p> <p>イ 生徒の正しい職業観育成のために、職業別進路講演会をはじめ、職場訪問・体験等を実施する。</p> <p>ウ 1、2年全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学紹介の冊子を作成する。(100%参加目標)</p> <p>エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。(参加者を200名にする:平成26年度の目標)</p> <p>オ 校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめ、新たに進路資料システムを作成して学習指導・進路指導に活用する。</p> <p>カ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。そのための、教育課程の改善にも取り組んでいく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 計画・立案された学習サポートプログラムにおける生徒の満足度を90%以上にする。</p> <p>イ 参加者1年生は全員対象、2年生は250名程度を目標として参加満足度90%以上にする。</p> <p>ウ 生徒の自学自習力を高めるために、自習室を開放する。その満足度を80%以上にする。</p> <p>エ 「心のルーブリック評価」として平均3.0以上にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 京大・阪大・神大の希望者数を100名以上にする。</p> <p>イ 同窓生の協力を12名以上にして希望職業ごとに2回講演とする。(平成26年度は12名)企業見学は30名以上(平成26年度は25名)</p> <p>ウ 昨年に引き続き全員参加(平成26年度100%)</p> <p>エ 施設見学等の参加者100名以上にして、進路意識を向上及び課題研究の内容充実度を80%以上にする。</p> <p>オ 新たな進路資料として、生徒一人ひとりのポートフォリオを作成する。学校教育自己診断アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考える機会がある」については85%(←82%)、「希望する進路が実現するための講習や補習が充実している」については70%(←68%)を肯定的な回答になるようにする。</p> <p>カ 生徒の3年次の進路第一希望を55%以上、京都・大阪・神戸大学等の難関大学65名以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア アンケートによる満足度は89%でほぼ予定通り3年間を通じた学習サポートプログラムも実施することができた。1年間の集大成としての豊高プレゼン(含SSH・SGH課題研究発表会)を今年度は2月9日の全日を使って行う。(◎)</p> <p>イ 予定通り1年生については全員対象の360名が参加した。2年生については会場との関係から全員参加は出来なかったのが、クラブ単位で結果的に200名程度になった。ただ、生徒の満足度は91%となりほぼ目標通りとなった。(○)</p> <p>ウ 自習室については、平日は部活動を行っていない生徒が中心となるので、20名程度の参加であった。ただ、週2回の午後7時30分の開放については、部活動終了後60名以上の参加があった。当初の予定通り次年度も週2回は午後7時30分まで自習室を開放する。満足度は82%(○)</p> <p>エ 「心のルーブリック評価」はSSHの課題研究の評価として実験的に実施してきた。ただ、SGHについては*豊高型グローバルマインドセット評価(別紙参照)のルーブリックを使って評価している。心のルーブリックの評価は平均2.8であった。生徒の自己評価は思っていた以上に低かった(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 現時点で希望者は115名(◎)</p> <p>イ 今年度も、現職の方(本校卒業生)13名によるキャリア教育を1年全員に希望別参加型講演会を2回(同日)実施することができた。また、企業見学として三菱重工、新日本製鉄、島津製作所等30名参加した。次年度も、進路を考えるよい機会でもあるので継続していく。(○)</p> <p>ウ ほぼ計画通り参加促進することができた。次年度も進路を考えるよい機会でもあるので継続していく。(○)</p> <p>エ 参加人数も100名を超え、見学だけでなく実験体験等中身も充実させることができ、京・阪・神大の希望だけでなく、内容で大学学部を考える生徒が増えた。次年度も、進路を考えるよい体験でもあるのでより一層連携を進めていく。充実度は85%。(○)</p> <p>オ 本校独自の生徒一人ひとりのポートフォリオとして校務処理システムや模試等のデータをベースにしたデータベースづくりのシステム構築を行なっているところ。学校教育自己診断アンケートにおける肯定的な回答として、「将来の進路や生き方について考える機会がある」については82%(←82%)、「希望する進路が実現するための講習や補習が充実している」については68%(←68%)とまだ横ばい。(△)</p> <p>カ 平成28年度入学生用の新しいカリキュラムを作成することが出来た。進路第一希望実現51%、難関大学合格49名(現役)(△)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 国際舞台で活躍する人材育成</p>	<p>(1) 志の育成 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、「志」学を本格実施する。「志」学では、社会貢献の意識を醸成し、リーダーとしての資質を育成することを目標にして、教科・科目の授業とボランティア活動等の体験的活動を行う。</p>	<p>(1) ア 地元豊中市と連携し、公民館・分館、小中学校、支援学校、高齢者施設等の取り組みや活動に本校生（主として2年生）が参加し、体験的活動を行う。その中で、自分の有用感や社会貢献の志を育てる。クラブ単位での参加・活動も進めていく。 イ 自治会の生徒のリーダーシップ養成に向けて、学校行事を中心に企画・立案する機会を増やしていく。</p>	<p>(1) ア・実践報告をまとめ、参加者は2年生全員とする。 ・学校教育自己診断結果における活動に肯定的な答えが85%以上。(平成25年度は81%) ・「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者(対象2年生)を引き続き100%にする。 イ・体育大会、校内大会、文化祭の関わり度合いと満足度についてアンケートを行う。 【関わり度合い】 ・体育大会→50% (←40%) ・校内大会→90% (←80%) ・文化祭→50% (←40%) 満足度はいずれの場合も80%以上。</p>	<p>(1) ア 計画通り実施され、実践報告書も作成中。また、生徒の満足度も肯定的な答えは85%を超えている。次年度も継続させるとともに、報告書の更なる充実も図っていききたい。参加者は100% (○) イ・体育大会→52%、校内大会→91%・文化祭→44%となった。また、今年度は「とよなか進路フェスタ」において、自治会の生徒たちが自ら学校説明会を行なった。そのため、満足度はいずれの場合も80%以上になった。(◎) (2) ア 今年度は夏期集中してリスニング講習を実施することができたが、参加者は260名で予想より少なかった。その原因としてTOEFL講座等、英語リスニング練習する機会が多く増えたのも一因かもしれない。次年度も短期集中ということで様子を見る。(△) イ TOEFLiBTは、1年生で60点以上は2名で、目標には達しなかった。(△) ウ 今年度は普通科にも拡大し、1年生全員の360名に対して、留学生は68名参加での交流会を行なった。その内容は、事前にグループごとの課題研究(異文化理解)を中心とした英語での討論会形式とすることができた。(◎) エ 英国語学研修は32名参加で、その満足度も85%と高かった。ただ、フィリピン語学研修は、フィリピンではホリデーウィークに当たり、実施できなかった。次年度は学内留学として5日間のグローバルスタディプログラムを実施する予定。(○)</p>
	<p>(2) 骨太の英語力養成事業の推進</p>	<p>(2) ア 英語によるコミュニケーション力の育成(リスニング・プレゼンテーション講習) イ TOEFLコース生として高度な4技能(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング)の養成に向け、TOEFLiBT仕様の授業を、SET(スーパーイングリッシュティーチャー)を中心に、文理学科80名に対して行う。 ウ 大阪大学・関西学院大学・豊中地域在住の留学生等との交流を行う。(年間3回) エ 英国語学研修(参加者30名以上)、フィリピン語学研修(参加者10名以上)を継続実施する。</p>	<p>(2) ア リスニング講習参加者は引き続き300名以上にする。(平成26年度300名) イ TOEFLiBT第1学年で4人以上が60点以上にする。 ウ 留学生等との交流を昨年同様文理学科全員(160名)に対して年間3回実施する。(平成26年度3回) エ 英国語学研修・フィリピン語学研修参加者の満足度を80%以上にする。</p>	<p>(3) SSH事業の推進 ア 学校全体で取り組める体制ができ、第2期SSH及びSGHも指定を受けることができた。(◎) イ 予定通り台湾台頭女子高校生と共同研究も行った。さらに、新たな共同研究校としてシンガポールの高校生と3月に共同研究を行う予定。(◎) ウ SSHアンケート結果で科学に関心を持った生徒は92%になり、着実に理系に関心を持つ生徒が増加してきている。また、卒業生も本校のTAとして10名程度来てもらっている。(◎) エ 延べで研修参加生徒を110名以上となった。(◎)</p>
	<p>(3) SSH事業の推進</p>	<p>(3) ア 第2期のSSH事業の継続を元に作成したプログラムを実施していく。 イ 科学コンクール・科学オリンピックで入賞者を出すために、各種科学コンテスト等に参加し、高い志を持たせる。 ウ 文系・理系に限らず、生徒全員が科学に関心を持ち、科学リテラシーをもつために、生徒自身の研究発表会や講師による土曜セミナー等を開催する。 エ 科学(物理、化学、生物、地学)研修を継続実施する。</p>	<p>(3) ア 全教職員が協力して関わることのできる組織とする。 イ 台湾台頭女子高校生と共同研究を行う。(平成25年度は台湾シンガポール高校生科学チャレンジコンテストに応募することができ、Design and Build Challenge部門では本校生が優勝した。) ウ SSHアンケート:科学に興味関心をもった生徒を90%以上にする。(平成26年度は88%) エ 延べで研修参加生徒を100名以上とする。</p>	<p>(4) SGH事業の推進 ア 今年度はSGHの指定を受け、学校全体で取り組める体制ができた。(◎) イ 「つながり」と「文化」から紐解く豊中グローバルプログラムとして日本とイスラムから新たなスタンダードを創造する人材育成プログラムの元で予定以上にSGH課題研究が進行し、それに伴い興味・関心を持つ生徒は85%に達した。(◎)</p>
	<p>(4) SGH事業の推進</p>	<p>(4) SGH事業の推進 ア SGHアソシエイトからSGHに向けて、教育の国際化を視野して真のGLHS校として学校全体で取り組む組織を確立する。 イ 現在グローバル化をめぐる中心的な問題が先鋭なかたちで現れているイスラム世界(言葉や文化の壁が最も大きくて理解しがたい)の多様性の理解の深化を通して、日本文化とのつながりから新たなグローバルスタンダードを創造するプログラムを研究開発する。</p>	<p>(4) ア SGH推進委員会及びSGH課題研究委員会を組織して、各教科が関わる体制にする。 イ SGH課題研究に興味関心をもった生徒を80%にする。</p>	<p>(5) GLHS事業の推進 ア 拡大GL推進委員会を組織立てた。(○) イ SSHに10名、SGHに6名のTAを参加させている。(◎) ウ 豊高プレゼンは2月9日の全日で実施。その満足度も87%(○) オ 英国語学研修は35名(昨年29名)、科学研修は述べ80名を超えた。次年度も継続していくとともに、英語に特化した海外短期留学としてフィリピン語学研修を行う予定、現在10名参加予定(◎)。 カ 新カリキュラムとして平成27年度から正式に実施予定のTOEFLコース生カリキュラムを作成することができた。(○)</p>
	<p>(5) GLHS事業の推進</p>	<p>(5) GLHS事業の推進 ア GLHS事業計画にもとづき、学校全体で取り組む組織を確立する。 イ 文理学科としての理系及び文系の課題研究の質を高める。 ウ 1年間の授業成果及発表(豊高プレゼン)を行い、豊高のGLHS校としての取組みを、広く生徒、保護者、教員等に知らせる。</p>	<p>(5) ア 現在組織として動いているGLHS委員会に、SSH、SGH事業関係も取組む体制とする。 イ 3年生が1、2年生を指導する課題プログラムの開発や大学生・大学院生のTA(ライティングアシスタント)を10名以上参加させる。 ウ 豊高プレゼンでのアンケート結果における肯定的な答えを85%以上にする。(平成25年度は85%)</p>	<p>(5) GLHS事業の推進 ア 拡大GL推進委員会を組織立てた。(○) イ SSHに10名、SGHに6名のTAを参加させている。(◎) ウ 豊高プレゼンは2月9日の全日で実施。その満足度も87%(○) オ 英国語学研修は35名(昨年29名)、科学研修は述べ80名を超えた。次年度も継続していくとともに、英語に特化した海外短期留学としてフィリピン語学研修を行う予定、現在10名参加予定(◎)。 カ 新カリキュラムとして平成27年度から正式に実施予定のTOEFLコース生カリキュラムを作成することができた。(○)</p>

<p>3 教員の授業力等の資質向上に向けた取組み</p>	<p>(1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年間2回組織的に実施する。</p> <p>(2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。(年間2回)</p> <p>(3) ICT活用として、教職員間で教材の共有を図ることで、授業の普及に努める。</p> <p>(4) 初任者や経験年数の少ない教員とミドルリーダーのコラボによる教員の研修を組織的に行い、学校をより活性化させる。</p> <p>(5) 年度の必要性に応じて、教員研修として、年1回以上は人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。</p>	<p>(1) 昨年度同様、全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年間2回実施する。</p> <p>(2) 教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、教科・科目としての授業改善を図る。更に、全体研修会を1回は必ず行う。</p> <p>(3) これまで各教員が個々に管理していた教材について、ICTを活用して、教職員間で情報共有できるシステムを構築する。また、ICTを活用した授業について、多目的室で電子黒板による授業やプレゼンも行き、普及に努める。</p> <p>(3) 初任者や経験の少ない教員には、社会人としての振る舞いや教科指導・生徒指導等に自信と誇りを持って取り組ませ、生徒を教育することの達成感を味あわせる。また、ミドルリーダーとのコラボにより学校の抱える問題やこれからの教育にどう取り組んでいくか等についてもディスカッションする。</p> <p>(5) 今年度は、教員研修として、教育相談研修として「発達障がいについて」というテーマを取り扱う。</p>	<p>(1)年間2回実施することにより、1回目で低い値であった教員の授業力をより高めていくことで、評価の平均値を3.2以上にする。(平成26年度の平均値は3.2)</p> <p>(2) 授業アンケート結果の値が1回目より2回目の方がよりよくなっているようにする。また、学校教育自己診断において、「教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある」の割合を80%以上にする。(昨年度は80%)</p> <p>(3)教員の教材利用状況を調査して活用度を50%以上にする。また、学校教育自己診断結果におけるICT関連項目での満足度50%以上(平成26年度45%)</p> <p>(4) 管理職、初任者、ミドルリーダー等を交えて、研修を週1回行う。(平成26年度は週1回行った。)</p> <p>(5) 教職員の満足度を70%以上にする。</p>	<p>(1) 評価の平均値を3.20となり、昨年度とほとんど変わらなかった。(○)</p> <p>(2) 各教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行った。また、各教科で授業についての分析や改善のための総括を作成した。「興味・関心が持てるようになった科目」に対して、生徒の満足度は75%に増加した。これは、各教科での第1回授業アンケート後における授業分析や改善策及び校内授業力向上研修によることも大きい。また、学校教育自己診断において、「教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある」の割合は83%となり、PDCAサイクルが上手く回っているものと思われる(○)</p> <p>(3) ICT活用授業については、機器等の関係がなかなか進まないのが現状であるが、そんな中で、機器の問題ではなく、いかに生徒が活動する授業を心がけていくかというアクティブラーニング型の授業を行っている教員が増加した。ただ、現状ではその活用度は30%程度にとどまっている。経験年数の少ない教員を中心に先進的にアクティブラーニング型の授業に取り組んでいる学校を訪問させ、その成果を報告させた。そのことにより、2学期以降、アクティブラーニング型の授業が増えていった。(○)</p> <p>(4) 新任や経験年数の少ない教員には毎週木曜日の4限目に研修を行っている。この1年間で着実に新任や経験の少ない教員の力は伸びてきている。本校だけでなく大阪の教育を担ってもらえるような研修を校長も交えて週1回行った。(◎)</p> <p>(4) 今年度は、教員研修として、「発達障がいについて」、「アクティブラーニング型の授業を先進校に学ぶ」及び「学校教育自己診断と授業アンケートから見る授業改善について」の3回行った。満足度は80%(◎)</p>
----------------------------------	---	---	--	---

心のルーブリック(例)						
		1	2	3	4	5
		大きな努力を要する	努力を要する	概ね達成	十分達成	期待以上
積極性	評価基準	・極めて消極的で、探求心や知的好奇心が育っていない。	・与えられたことには取り組むが、自ら探究する力は不十分である。	・課題に対して進んで取り組む。	・自ら課題を発見し解決しようとする。	・自ら課題を発見し、その解決に向け全力で取り組む。
	行動指標	・その時間内のみ活動し、個人的な調べ学習はない。 ・校内の発表会にも非常に消極的である。 ・意見を求められても自分の意見を言うことができない。 ・教員や指導員を避けようとする。 ・同じ班員ともコミュニケーションを取ろうとしない。	・基本的に活動はその時間内のみだが、与えられた課題は一応調べる。 ・校内の発表会で、発言することができる。 ・意見を求められれば自分の意見を言うことができる。 ・教員に自分の意見は言えないが、指導を仰ぐことはできる。 ・同じ班員とはコミュニケーションを取れる。	・与えられた課題に対して関心をもち、活動時間以外にも手近な資料やインターネットでの調べ学習は行う。 ・校内の発表会で積極的に発表できる。 ・意見を求められなくても、自分の意見を言うことができる。 ・顔見知りの教員であれば、意見を述べ、指導を仰ぐことができる。 ・校内規模であれば、コミュニケーションが取れる。	・自らの関心に基づいて課題を設定し、活動時間以外も実験に取り組む。 ・学校や近隣の図書館の本で調べ学習を行う。 ・外部の発表会で積極的に発表できる。 ・グループ内では率先して意見を述べるができる。 ・顔見知りの教員であれば意見を述べ、指導を仰ぐことができる。 ・外部のネットワークに参加することができる。	・自らの関心に基づいて課題を設定し、活動時間以外も試行錯誤を繰り返しながら実験に取り組む。 ・専門書を用いた調べ学習や専門家にメール等で質問することができる。 ・教員の勧めがなくても、外部での発表会に積極的に参加し発表できる。 ・他校生と積極的に意見交換や議論ができ、新たなネットワークを構築できる。 ・外部指導員や専門家にも積極的に意見を述べ、指導を仰ぐことができる。
忍耐力	評価基準	・失敗したり、不利な状況に陥ったりすると取り組む意欲を失う。	・失敗したり、不利な状況が続いたりすると取り組む意欲を失う。	・失敗や不利な状況が続いても意欲を失わず、継続して取り組むことができる。	・失敗や不利な状況が続いても、状況が好転するまで継続し続けることができる。	・失敗や不利な状況に耐えるだけでなく、前向きに物事を捉えその解決に向けた努力を続けられる。
	行動指標	・数回実験が失敗すると意欲を失い、その実験から逃げる行動を取る。 ・実験ノートをもとにとることができない。	・数回実験が失敗しても、教員の指導があれば、ある程度実験を続ける。 ・実験ノートに日付や温度等、その日の実験結果など最低限の事項は記入するが、考察が薄い。	・実験の失敗が続いても、教員の指導無しで引き続き実験に取り組むが、検証、考察等がおざなりになる。 ・実験ノートには、概ね型どおりのことを記入し、その実験に基づく考察もある程度は書けるが、主観に基づく記述が増える。	・実験の失敗が続いても、教員の指導無しで引き続き実験を行うことができ、試行錯誤による問題解決ができる。 ・実験ノートにその都度気づいたことなどを記入する等、再現性を高める努力が見られる。考察等も妥当で、同じ実験結果でも、毎回複数の考察が書ける。	・実験の失敗が続いても、モチベーションを失わず、原因を探り、新たな考えのもと進んで実験に臨むことができる。 ・実験ノートに気づいたことを細かく記入し、極めて再現性の高いノートを作り続けられる。毎回の考察も鋭く、常に新たな文献で調べた内容等が書かれている。
協調性	評価基準	・規律やルールを無視し、自らの都合や感情を優先した行動をとる。	・規律やルールを守る意識はあるが、他者への配慮が欠ける場面が見られる。	・規律やルールを守り、集団として行動しようとする。	・規律やルールを守るのはもちろん、率先してコミュニケーションを取ろうとするなど、集団を高める意欲が見られる。	・他の模範となる行動が随所に見られ、集団のモチベーションを極めて高い状態に維持することができる。
	行動指標	・他の班員に対して無関心あるいは、非常に消極的である。 ・他者を責めたり、威圧的な態度を取る。 ・ルールや約束を守らず、班員に迷惑を掛ける。	・班への所属意識はあるものの、積極的に関わろうとはしない。 ・指示されたことや決められたルールは守ろうとするが、基本的に楽しようとする。 ・意見は求められれば言う程度で、前向きで無いものも含まれる。	・班の中で与えられた役割をしっかりと担い自己都合を優先しない。 ・積極的に発言するが、他者の発言を促すことまではできない。	・自ら班での役割を認識し、時にはリーダーとなってグループ内のコミュニケーションを円滑に進められる。 ・積極的に発言し、他者の発言を促すことができる。また、他者の意見に同調し、自分の意見を変えることができる。	・極めて高いリーダーシップを発揮し、所属するグループを活気づけることができる。 ・他の集団とも連携し、学校や組織の枠を超えた活動ができる。

豊高型グローバルマインドセット評価のルーブリック

		世界への関心・知識	多様性の理解	コミュニケーション	グローバルシチズンシップ	言語活動
観点		世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する強い関心と共感を持ち、探究心をもって理解しようとする。	新しく、価値のあるアイデアを、他者と一緒に創造的に考える。	異質な人びとからなる多様な社会グループにおいてよい人間関係を形成するとともに、対立を処理し、解決できる。	我が国と世界の国々の文化・社会を積極的に理解しようとし、国際的視野と高い教養をもって人類の普遍的価値を尊重するとともに冒険に対する探究心をもつ。	世界の人びとと協働するとともに世界で活躍するために、世界共通言語である英語4技能を高めたいという強い意志と実行力をもつ。
5	期待以上	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する強い関心と共感を持ち、探究心をもって理解しようとする。世界に関する教養と洞察を高めている。	他者に対して効果的に、新しいアイデアを提案・実行し、新しい見方・考え方や多様な見方・考え方に対して偏見をもたない。	異なる民族・宗教・文化・社会の人びとと相互に尊重し合えるとともに、対立が生じた場合、異なる立場があることを理解し、現状の課題について、その原因を分析することで、問題の再構築をする。	自国への帰属意識及び世界の一員としての意識を高くもち、外国に対する探究心や冒険心を育んでいる。	外国からの留学生等に、積極的にプレゼンテーションをしたりディスカッションを行い、そのパフォーマンスも高く、英語運用能力に強い自信をもつ。
3	概ね達成	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する関心と共感を持ち、探究心をもって理解しようとするが、世界に関する教養と洞察は高まっていない。	新しい見方・考え方や多様な見方・考え方に対して偏見をもたないが、他者に対して十分効果的に、新しいアイデアを提案・実行することができない。	異なる民族・宗教・文化・社会の人びとと相互に尊重し合えるが、対立を調整し処理・解決する意欲や実行力が十分ではない。	自国への帰属意識及び世界の一員としての意識をもっているが、外国に対する探究心や冒険心に欠ける。	外国からの留学生等に、積極的にプレゼンテーションはできるが、ディスカッションができるまでのパフォーマンスに欠ける。英語運用能力への自信も弱い。
1	大きな努力を要す	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する関心と共感に欠ける。	新しい見方・考え方や多様な見方・考え方に対して偏見をもってしまう。	異なる民族・宗教・文化・社会の人びとと相互に尊重し合う気持ちに欠ける。	自国への帰属意識及び世界の一員としての意識が希薄である。	外国からの留学生等に、積極的にプレゼンテーションができない。英語運用能力への自信もない。

※ 5には及ばないが3を上回る評価には、4を与える。

※ 3には及ばないが1を上回る評価には、2を与える。